

れらへの各種治療法例えば化学療法、麻酔などの意義を明かにして、その療法の具體的基準を研究中。

6. 正常及び異常妊娠時並びに上記各種病態の代謝の特異性の上になつて、それぞれの適切な栄養法を研究中。特に、蛋白質においては、量のみならず、チスチン、メチオニンなどその質についても研究中

102. 胎状奇胎及び絨毛上皮腫の悪性度に関する研究

(東大) *河合信秀, 木下 佐, 池川重徳, 小林賀雄, 丸山正義, 新谷昇治

1. 研究目標

絨毛上皮腫(絨腫)及び本症と最も密接な関係を有する胎状奇胎の悪性度の検討を目的とする。

2. 研究方法

剔除した胎状奇胎及び絨腫を Zenker, フォルマリン及びアルコール固定してこれに各種染色を施し、主として病巣周囲の子宮筋層内閉鎖血管壁の變化を病理形態學的、組織化學的に検索するとともに、奇胎囊胞液、黄体囊腫液及び手術前後の血中並びに尿中各種ホルモン(Estrogene (E), Pregnanediol (P), 17-KS, Chemo-corticoid (Ch), Gonadotropin (G))を測定し、特に黄体囊腫の存否によるそれらの變動に注目した。

3. 研究結果及び考案

1) 奇胎の組織所見上、時に囊胞液が上皮細胞間隙から少量ずつ絨毛間腔内に漏出しておる場合があり、それ

らの部分では漏出囊胞液に接してトロフォブラスト、特にラングハンス氏細胞の著明な増殖が見られるが、このことは絨毛細胞における異型的増殖の成因としての囊胞液の重要性を暗示するものではないかと考えられる。

2) 正常妊娠乃至胎盤ポリープなどの場合には、これら血管壁の空胞化傾向、奇胎の場合には空胞化並びにフィブリノイド膨化が見られ、これに反し絨腫の場合にはこれら變性の修復像が見られる。これらの變化は奇胎では鑛質 Corticoid, 絨腫では糖質 Corticoid がそれぞれ相對的、局部的に増量しているためと推定され、DOCAペレットを人子宮腔内に挿入した場合、周邊血管壁に奇胎と殆ど同様な組織像が見られたことは、該推定の妥當なことを裏書きするものと考えられ、またこれらの所見は絨腫の診断及び豫後判定上かなりの價值があるように思われる。

3) 尿中並びに血中ホルモン値は黄体囊腫の有無によつて左右され、囊腫を有する奇胎ではPが多く、Friedman 反應とともに長期にわたつて徐々に陰性化する。17-KSは囊腫の無いものに低く、Eは少い傾向にある。奇胎囊胞液中には多量のG及び相當量のEが含まれ、17-KSやChも明らかに存在する。ただし子癩を起した例ではEは陰性で、17-KSも低値を示した。つぎに黄体囊腫を合併せぬEは低い傾向にあり、Pは常に小數點以下を示し、17-KSは2~11mg/dlの間で動揺した。

6月28日(第3日)

103. 思春期における女子の成長、發育と初潮との關係について

(廣島大) 門田顯治

私は初潮發來期を中心とした思春期女子の成長・發育過程すなわち骨成熟、身體發育、軟部組織發育、成長線發生の各過程を、廣島在住女子770例、岩國在住女子932例につき、つぎの如き方法で觀察した。骨成熟過程と初潮との關係についての觀察には手骨X線寫真の定期的撮影法を用い、各個人の初潮發來時の骨年齢算定および種子骨發現時期と初潮發來期との關係を検討し、身體發育過程と初潮との關係についての觀察には、身長・體重・肩巾・腰巾を定期的測定し、各個人の初潮中心年齢(初潮發來日を0年とする年齢構成)に基づくそれぞれの年間増加量を検討し、軟部組織發育過程と初潮との觀

察には、各個人の左側下腿X線寫真の定期的撮影法によるふくらはぎ最大部の皮下脂肪層および筋肉層断面計測を行い、初潮中心年齢に基づくそれぞれの年間増加量を検討した。また初潮發來時期と成長線發生時期との關係についても、初潮中心年齢に基づく發生頻度を検討した。

成績: 1)骨成熟過程と初潮との關係—各個人の初潮は本母集團において骨年齢の14歳6カ月を中心としてその前後1年6カ月の範囲内に發來し、満年齢の場合にみられるような廣範圍な個人差(本母集團で10歳9カ月~17歳3カ月)は全く消失する。また各個人の初潮は手の種子骨が發現する以前に發來すること無く、また種子骨發現後1~3年以内に殆んど(94%)發來する。

2) 身體發育過程と初潮との關係—各個人の初潮中心